

## 推薦図書

『中動態の世界-意志と責任の考古学』

國分功一郎 著

医学書院

推薦教員

福祉心理学科

別府 さおり准教授

「授業中に学生がうとうと居眠りをしていれば、教師はそのことを叱責する。だが、詳しく問いただしたところ、その学生がたとえば、『実は交通事故で両親を亡くして、幼い妹と弟のために毎晩アルバイトをしているんです。だからなかなか十分な睡眠がとれなくて…(中略)』という事情を説明し始めたらどうだろうか。教師はおそらく叱責したことを後悔するだろう。それどころか、『そうか、体に気をつけろよ』などと励ましの言葉すらかけるかもしれない。」「なぜ、教師の対応は突如正反対のものになり、またわれわれもその変化に納得するのだろうか？」

「アルコール依存に陥ったことの原因は本人にあるのだろうか？」

筆者はこのように問いかけながら、能動でも受動でもない「中動態」の概念を、哲学、言語学、倫理学の観点から論じています。多彩で深い学問的知識を要求される一部分は、ほとんど理解できず読み飛ばしたことを白状しておきます。でも、多少読み飛ばしてでも読んでみる価値がある本です。

また、カツアゲを例に挙げ、筆者は以下のように述べています。

「強制はないが自発的でもなく、自発的ではないが同意している、そうした自体は十分に考えられる。というか、そうした事態は日常にあふれている。それが見えなくなっているのは、強制か自発かという対立で、すなわち能動か受動かという対立で物事を眺めているからである。」

私たちの意志はどこにあるのか。物事の始まりには、本当にその人の意志があるのか。意志と選択の違いは何か。能動的であることが良いことなのか。当たり前のように前提としてきたことを、問い直す機会を与えてくれます。

意思決定支援を含む職業に携わろうとする学生には、特にオススメです。



4F 書棚 1 請求記号：104||Ko 45 にあります。読んでみてください。